

「令和 6 年度大阪府 SDGs 有識者会議」(第 1 回) 議事概要

■日 時 : 令和 6 年 9 月 3 日 (火曜日) 10 時 00 分～12 時 00 分

■有識者 : (五十音順)

- ・今井 健 氏 (国際協力機構 (JICA) 関西センター 次長)
- ・川久保 俊 氏 (慶應義塾大学 理工学部 准教授)
- ・草郷 孝好 氏 (関西大学 社会学部 教授)
- ・村 上 芽 氏 (株式会社日本総合研究所 チーフスペシャリスト)
- ・柳川 雅嗣 氏 (吉本興業ホールディングス株式会社
コーポレート・コミュニケーション本部)

- 次 第: 1. 令和 6 年度の事業報告・予定
2. 令和 7 年度以降の事業予定
3. その他

■議事録

1. 令和 6 年度の事業報告・予定

(村上 芽 氏)

・資料 5 ページの「府自らの取組みの推進」に記載のリストについて、これは絞り込みを行ったリストか教えてほしい。現在 SDGs は感染症・気象災害・紛争で世界的に苦労している。気候変動など世界的な課題への取組みも府にはあるはずで、もっと見えてもいいと思う。

(事務局)

・資料には、SDGs 未来都市計画に掲げる取組みのみを記載している。資料の見せ方は今後も検討していく。

(草郷 孝好 氏)

・リストにある取組みの選別は誰が行っているのか教えてほしい。事務局ではなく、府の担当部局の職員自身が、各取組みについて SDGs に関連するかどうかを考え、その結果、リストに載せるのがあるべき姿と考える。

・リストを見ると、「経済」の観点での取組みが抜けており、大阪で行っていることが見えてこないのが残念。来年は各部局を巻き込んで作成したリストを見たい。

(事務局)

・リスト自体は事務局で作成しているが、年に 1 回全庁照会を行い、各部局が SDGs 達

成につながると考えた取組みを抽出している。「経済」の部分に関する記載など、ご意見を踏まえて、各部局としっかりとコミュニケーションをとっていく。

（草郷 孝好 氏）

・行政において、**SDGs** に関連しない事業のほうが少ないはず。**SDGs** に紐づかない事業を実施する必要があるのかどうかを検討すると、行政のスリム化にも活用できると思う。

（川久保 俊 氏）

・多くの自治体では総合計画を作るが、大阪府は作っていなかったものと記憶している。総合計画が存在しなかったとしても、各部局の計画・施策、**KPI** などの取りまとめは行われているのか教えてほしい。

（事務局）

・大阪府は総合計画を作成していない。「大阪の再生・成長に向けた新戦略」や「万博のインパクトを活かした大阪の将来に向けたビジョン」などを作成しており、各計画で **KPI** を設定している。

（草郷 孝好 氏）

・資料 9 ページに記載のある大学の出前授業は、具体的にどのように進めているのか教えてほしい。

（事務局）

・1 講義を 90 分でやり切る形なので、委員の皆様からすれば物足りない内容であると思う。20 分の講義のあと、ワークをメインに実施している。ワークを通して好きなゴールを選び、その統計データを見て、分析した上で、**SDGs** 宣言を考えてもらっている。時間の制約もあるが、本来は複数回講義ができた方がよいと考えている。

（草郷 孝好 氏）

・大学生に向けては、**SDGs** 未来都市計画などを資料とし、提案を考えてもらうのはどうか。今の内容では小中学生向け。自分が参加しているサークルで何ができるかなどについて、自分で立案させるほうが、大阪府、学生両方にとってよいと思う。

（村上 芽 氏）

・今年で 3 年目になるが、**SDGs** 入門という講義を半期で 15 回実施している。現在の学生は、中学校や高校で **SDGs** を勉強しているので、理解度が上がっていると感じる。アルバイトやゼミなどの実体験を通して考えてもらうべき。15 回の講義の中で好評だったのは、サー

キュラーエコノミーをテーマとした回で、「あなたは企業のプロジェクト担当者です。〇〇の課題解決のためにどうしますか？」というもの。このような聞き方をすると、より自分事化された宣言が出てくるのではないか。

（事務局）

・来年の全国フォーラムに向けたプレイベントのアイデアにもなるかもしれないので、是非今後ともご相談させていただきたい。

（川久保 俊 氏）

・先ほどの講義の中で、1 アクション 1 ゴールに結びつけていることに違和感を覚える。**SDGs** のシナジー効果が注目されているので、他のゴールも見据えたアクションを考えさせる仕掛けを入れると、より高度な提案になると思う。

・資料 10 ページに記載のある **SDGs** 関連指標の活用とは、「地方自治体 **SDGs** 達成度評価 **DATABOOK 2015-2023**」の大阪府版を作るという理解でよいか。

（事務局）

・統計データをビジュアル化し、見やすくすることで、様々な場面で活用いただくことを意図している。

（川久保 俊 氏）

・「地方自治体 **SDGs** 達成度評価 **DATABOOK 2015-2023**」の指標は、日本全体で等しく取れるデータを選定しており、大阪府だけに絞ればもっとたくさんのデータを取れるはず。大阪府として見るべき指標を可視化することで、大阪らしさが出ると思う。

・大阪府の強みが可視化されるような、独自の指標も考えた方がよい。

（草郷 孝好 氏）

・大阪モデルでは、ウェルビーイング指標のような主観的指標を、客観的指標と組み合わせでどう取り扱っていくかを検討するとよい。

（川久保 俊 氏）

・デジタル庁がウェルビーイング指標のダッシュボードを作成している。ウェルビーイング指標と **SDGs** 関連指標で交差するような部分があれば、ヒントになるのではないか。

・大阪府は **SDGs** ビジョンをかなり早く策定されたので、データ活用についても他自治体をリードすることを期待している。

（事務局）

・データブックは、**SDGs** 初心者向けの取組みの参考となるようなものを想定して作成を進めている。

・一方で、「もっとレベルの高いことを大阪からやっていかないと、大阪は **SDGs** 先進都市にならない」というご意見はごもっともだと思う。

(村上 芽 氏)

・大阪ならではの独自指標として、「最近、笑いましたか？」というような指標はどうか。芸人等が言ってくれることによって、その価値が伝わるのではないか。「（お笑いを）見に行ったことがありますか」というのはハードルが高いだろうが、場所を問わず「笑ったか」であれば回答しやすいのでは。笑うことは、**SDGs** の 3 番にも、ウェルビーイングにもつながる。

(柳川 雅嗣 氏)

・当社は **SDGs** が広まり始めた当初から、かなり意識して取り組んでいる。**SDGs** の知識は広まりつつあるので、現在は行動を促す方向にシフトしている。笑いを通じて、意識の低い層を高い層に上げるようなサポートをしていきたい。「何をしたらよいかわからない」方や、「**SDGs** はお金がかかる」と考える方も多くいらっしゃるので、少しでも興味を持ってもらえるよう、**SDGs** の題材を入れた新喜劇の上演も実施した。新喜劇を見に来たファミリー層に遡及して、子どもが成長した際に **SDGs** に興味を持ってもらえるようにする必要を感じており、今後も継続していきたい。

(草郷 孝好 氏)

・誰もが笑えるような社会は、いい意味で **SDGs** が進んでいると言えると思う。

・「私の **SDGs** 宣言」は、アクションにつなげることが重要。大阪府の独自指標に加えて、府民が宣言を行動につなげる仕組みも作ってほしい。

(川久保 俊 氏)

・府民から集めた **SDGs** 宣言をホームページに掲載しているが、あれは府民のアクションリストそのものなので、名前を変えて「ローカル **SDGs** アクションリスト」として充実させればよいのでは。

・指標についても、ローカルな選び方をした独自指標と全国的な共通指標を組み合わせ、一連のメソドロジーを提案するのはどうか。選び方、見せ方、伝え方の方法論を大阪モデルとして発表すると、他自治体の参考になると思う。

(村上 芽 氏)

・今年の「**OSAKA KANSAI SDGs Forum**」が開催される 11 月 20 日は、子供の権利条約が採択された「世界子どもの日」。せっかくなので、子どもの権利に関する団体と連携し

てみては。子どもの権利を周知するきっかけにもなる。

2. 令和 7 年度以降の事業予定

(今井 健 氏)

- ・全国フォーラムのプレイベントは必要だと思う。まずは発信しなければその先につながらない。
- ・**SDGs + beyond** に繋がる発信に向け、**JICA** としても大阪府との連携は行う予定。

(村上 芽 氏)

- ・プレイベントと名乗るための条件はあるのか。

(事務局)

- ・規模は問わず、しっかり議論ができて、今後につながるようなイベントを目指しているが、少人数がよいのか、多くの方に参加いただく形で開催するのがよいのか、検討しているところ。

(村上 芽 氏)

- ・以前紹介した教育関係の世界会議では、全世界で分散的に会議を開催し、多くの人が興味をもった課題を最後の全体会議の議題とした。
- ・全国フォーラムで何をするのかにもよるが、まずは各々が課題と考えているものを挙げるようなプレイベントにしてみてもいい。

(事務局)

- ・若者が描くあるべき世界、社会像を発信し、そのための行動まで考えるようなプレイベントとしたいと考えている。

(村上 芽 氏)

- ・松江市の高校生と「**30** 年後がどうなったらよいか」などを考えるイベントを開催したが、探究の授業で学んだ“まっえ学”やキャリア教育など、さまざまな分野で学んだことを活用した議論となり、**SDGs** ビヨンド感があつた。
- ・「プレイベント」と名乗っていなくても、府内の学校で実施している探求の授業なども活用してもよいのではないか。

(草郷 孝好 氏)

- ・全国フォーラムのコンテンツイメージからさかのぼって、プレイベントを考えるべき。コンテンツは、『**Osaka SDGs** ビジョン』に掲げる大阪府の役割の **4** 点を網羅するとよい。
- ・プレイベントは、大阪の強みを活かし、府内自治体と連携できるとよいのではないか。また、多世代の府民が積極的に参加してくれるような未来会議を開催することもよいと思う。

(以 上)